

# 1. 石井 研堂

(1865.8.15 ~ 1943.12.7)

編集者、明治文化研究家。本名民司。筆名は研堂の他に、坂芋仙、周遊子などがある。

慶応元年8月15日に、現在の郡山市大町に、常盤屋という旅籠を営む裕福な商家の六人兄弟の三男として生れた。

研堂は明治4年、寺子屋に入門し、明治7年、郡山小学校に入学し、教師・御代田豊から近代的理数科教育を受ける。

明治16年、研堂は福島県小学教員検定試験に合格し、訓導として母校郡山小学校の任に就く。明治18年、同校を辞して上京、岡鹿門の漢学塾に入塾する。ついで、東京府高等小学校教員試験に合格したが、脚気のため帰郷し静養する。郷里滞在中、皆既日蝕を観察し、処女作『明治二十年皆既蝕紀事目録』をまとめた。また、初めての出版となる『福島県地理問答』を著した。

明治21年、再び上京し、東京教育社に入り、書方改良会の機関誌『国民必読』の編集を担当したが廃刊になる。翌22年5月、東京府有馬尋常小学校の訓導となる。訓導になってまもなく、小学校低学年向き雑誌の編集依頼があり、『小国民』を創刊する。創刊号のほとんど全てを書いたのは研堂である。これが予想を上回る売れ行きで即再版となり、当初月刊だったものが14号から月2回刊行となる。1年前に創刊された『少年園』とともに、近代日本初期の児童雑誌である。『小国民』の内容は、歴史、地理、理科、修身読み物、子どもたちの投稿文から成る。科学読物に重点を置き、事実に基づいて書くことが、研堂の基本的姿勢であった。

連載が好評で単行本になったものに『動物会』があり、前年出版された『十日間世界一周』とともに人気を博す。

明治28年、「海軍の信号」<sup>\*1</sup>という絵入り手旗信号の記事により、海軍の機密維持法違反で告発される。さらに「嗚呼露国」<sup>\*2</sup>が治安妨害に当たるとして発行禁止処分を受ける。それからおよそ2ヵ月後、『少国民』と改題し発行を続けたが、発行元の学齡館が経営不振に陥り、発行所が北隆館に移り、明治32年には編集主任を退いた。

その後発行した叢書『理科十二ヶ月』、続編『少年工芸文庫』は、理科読物・知識読物として高い評価を受けた。

さらに、数種の少年雑誌の編集に携わり、明治41年、『実業少年』<sup>\*3</sup>を創刊したが、明治44年、同誌の廃刊をもって、少年雑誌の編集から離れ、著述生活に入る。

研堂は、民間説話収集にも関心を寄せ、『日本全国国民童話』を著した。その一部は関敬吾の『日本昔話集成』<sup>\*4</sup>にも採録されるなど、今日でも評価されている。

他に、江戸時代の漂流記・漂流譚を子ども向けに紹介した『日本漂流譚』、資料調査に加え、中濱萬次郎自身へのインタビューに基づく伝記『中濱萬次郎』、創作読物『鯨幾太郎』『少年魯敏遜』など海事関係の著述も多い。

大正13年、明治文化研究会が結成され、創立メンバーとなる。晩年には、明治研究の必読文献として高い評価を受けている『明治事物起原』など、児童文学、児童雑誌の向上に尽くすだけでなく、幅広い文筆活動に携わった。

昭和18年12月7日、肺炎がもとで死去。行年78歳であった。

\*1「海軍の信号」『小国民 第7年1号』1895.1.1 当館所蔵は復刻版（不二出版1988） JZ051-I-14

\*2「嗚呼露国」『小国民 第7年18号』1895.9.15 当館所蔵は復刻版（不二出版1988） JZ051-I-16

\*3『実業少年』博文館（1908.1-12.12）竹貫登代多・佳水、幸田露伴、巖谷小波、渋沢栄一、大隈重信らが執筆者に名を連ねている。

\*4『日本昔話集成』角川書店1950-58

【作品介绍】

- ◆『明治二十年皆既蝕紀事目録』1887  
(1938年『研堂雜抄』の書名で刊行)
- ◆『福島県地理問答』東京教育社 1888
- ◆『十日間世界一周』学齡館 1889
- ◆『日本漂流譚』学齡館 1892-93 LA299-I2
- ◆『日本漂流譚(復刻版)』ほるぷ出版 1990  
J290.9-4
- ◆『中濱萬次郎』博文館 1900
- ◆『動物会』学齡館 1894
- ◆『鯨幾太郎』学齡館 1894
- ◇「少年魯敏遜」  
『少年世界臨時増刊 満艦飾』博文館 1900.8
- ◇「動物会」「鯨幾太郎」「中浜万次郎」  
「少年魯敏遜」『日本児童文学大系3』  
ほるぷ出版 1978 J918.6-ニ-3
- ◇「少年魯敏遜」『日本児童文学名作集 上』  
岩波書店 1994 X913.8-K
- ◆『理科十二ヶ月』博文館 1901-1902
- ◆『少年工芸文庫』博文館 1902-1904  
(◆『第19編 煙草の巻』1904 LA589.8-II-1)
- ◆『明治事物起原』橋南堂 1908
- ◆『明治事物起原 増訂』春陽堂 1926
- ◆『明治事物起原 増補改訂』春陽堂 1944
- ◆『明治事物起原 増補改訂(復刻版)』  
国書刊行会 1996 LA031-I
- ◆『明治事物起原 1-8』筑摩書房 1997  
LA031-I3
- ◆『明治文化全集 別巻 明治事物起原』  
日本評論社 1969 LA031-I
- ◆『日本全国国民童話』同文館 1911
- ◆『日本全国国民童話』宝文館出版 1974  
LA913.8-II-1

【参考文献】

- ◇『石井研堂』山下恒夫：著 リプロポート  
1986
- ◇『明治はじめて物語 石井研堂と「明治事物起原」』福島県立博物館 1993
- ◇『日本児童文学大事典』  
大阪国際児童文学館 1993
- ◇「石井研堂葉書」『福島県郷土資料情報 38』  
福島県立図書館 2000.3
- ◇「特集・大博物学者・石井研堂の世界」  
『叢書月刊 第15巻8号』弘隆社 1999.7

【略年譜】

西暦	和暦	歳	関係事項
1865	慶応1	0	8.15二本松藩領郡山村(現郡山市)に誕生。
1871	明治4	6	寺子屋入門。
1874	明治7	9	郡山小学校入学。
1878	明治11	13	上等小学科履修。
1885	明治18	20	上京。 岡鹿門綏猷塾に入門。
1886	明治19	21	高等小学校教員免許状取得。 脚気のため郷里静養
1887	明治20	22	皆既日蝕を郷里で観測。 『明治二十年皆既蝕紀事目録』作成。
1888	明治21	23	『福島県地理問答』刊行
1889	明治22	24	『小國民』編集・刊行。 『実用蚕桑書』刊行。 『十日間世界一周』刊行。
1890	明治23	25	『動物会』刊行。
1891	明治24	26	雑誌『こじき囊』編集刊行。
1892	明治25	27	『日本漂流譚 第1輯』刊行。
1893	明治26	28	『鯨幾太郎』刊行。
1895	明治28	30	『小國民』元旦号に「海軍の信号」を掲載し、海軍省令違反の疑いで告発される。 同9月15日号の論説「嗚呼露国」が治安妨害とされ発行停止処分となる。
1900	明治33	35	『中濱萬次郎』刊行。
1901	明治34	36	『理科十二ヶ月』刊行開始。
1902	明治35	37	『少年工芸文庫』刊行開始。
1908	明治41	43	『明治事物起原』刊行。
1911	明治44	46	『日本全国国民童話』刊行。
1927	昭和2	62	『異国漂流奇譚集』刊行。
1941	昭和16	76	『明治事物起原 増補改訂』刊行。
1943	昭和18	78	12.7肺炎にて逝去。